



# + 第1回日本膝関節学会

## ランチョンセミナー1

### 【BCS/BCR TKAの臨床実績と更なる可能性】

#### 日時・会場

2023年12月8日（金） 12:00 - 13:00

第1会場（パシフィコ横浜ノースG1+G2）

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1丁目1-2

#### 座長

赤木 将男 先生 医療法人榎本会 榎本病院 顧問

#### 演者

乾 洋 先生 埼玉医科大学総合医療センター 整形外科 教授



- 本セミナーは現地開催となります。
- 当日の整理券の配布はございません。
- 当日会場からのライブ配信は御座いません。  
後日学会HPからオンディマンド配信が予定されております。

- 認定単位：日本整形外科学会単位(N)
- 必須分野：6.リウマチ性疾患，感染症、12.膝・足関節・足疾患

+ お問い合わせ先  
スミス・アンド・ネフュー株式会社  
メディカルエデュケーション部  
Email : [OrthoMedEd.JP@smith-nephew.com](mailto:OrthoMedEd.JP@smith-nephew.com)

## 乾 洋 先生

埼玉医科大学総合医療センター  
整形外科 教授



### 【BCS/BCR TKAの臨床実績と更なる可能性】

両十字靭帯機能代償型(BCS)TKA (Journey<sup>◇</sup> II BCS; Smith and Nephew社)ではその解剖学的な関節面形状やdual post cam mechanismによりmedial pivot motion/bicondylar rollback等、生理的な膝関節に類似する動きが誘導される。臨床成績も良好であり、同時期に行った従来型PS TKAと比較し最大屈曲角度や患者立脚型評価でBCS TKAが有意に良好であった。また演者らの中期成績では、従来型PS TKAと合併症発生率に差はなかった。演者は両十字靭帯温存(BCR) TKA (Journey II XR)も積極的に行っている。Functional alignment法で行うことで臨床成績は向上し現在はUKAとほぼ同等の成績を獲得できている。近年、生来の関節面傾斜・アライメントを意識した手術法が広まりつつある。ただ生来の関節面傾斜を再現しても、関節面形状が解剖学的でなければ真の意味での「生来の膝関節」を再現したとは言えない。Journey IIはインプラントに3度の内方傾斜が内蔵されており関節面傾斜の再現をしやすく、関節面形状も解剖学的で「生来の膝関節」を再現するには現時点では最も有利な機種であると考えている。本講演では、究極のTKAを追求する”My Journey”の現在地を報告させていただく。